

第3回専門部会 議事録（人カテゴリー）

平成27年12月22日（火） 18時30分～

登別市民会館 1階 大会議室

- ◆出席委員：斎藤 正史 委員
- 近井 一夫 委員
- 垣内 登紀子 委員
- 安達 陽子 委員
- 伊奈 綾 委員
- 杉尾 直樹 委員
- 計6名

- ◆事務局：商工労政グループ 穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業（テーマ）の決定
（2）事業内容の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
	事務局	<p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第3回専門部会を開催いたします。</p>
	委員	<p>事業者目線や市民目線など、様々な視点から登別市の中小企業の応援をしていくという、この協議会の趣旨を踏まえながら取組を考えていただきたい。</p>
	委員	<p>今話し合っていることと中小企業振興との結びつきを明確にできていない。前回、登別の現状を知り、既存のものを活用した取り組みをしていきたいというところまで議論した。これと中小企業振興との結びつきに話が及ぶと、答えることが難しい。登別全体の活性化に繋がっていけば、中小企業の活性化に繋がるのではないかと考えられ、直接的に企業が潤う為の策を考える事は難しい。</p>
	委員	<p>人が動くことで経済が発生する。例えば、登別の基幹産業である観光は裾野が広くて、地域にある日の目を浴びていない資源があり、それを活用してすることにより経済が活性化していく。</p> <p>人が交流する拠点として、既存の施設で生かされていない施設、例えばアーニスを使う方法もあるのではないか。</p> <p>各地域に魅力の発信拠点があれば、地域の魅力が伝わる。道の駅の様に、市内全域の魅力をかき集めたハコモノを建てる必要はなくなるのではないだろうか。</p>
	委員	<p>温泉の桜が傷んでいれば植え直すなど、人が移動してくるような仕組みづくりが必要になる。</p> <p>ダムは登別市内にあるが、登別市の持ち主ではないため、そこに行政が入った中で連携を行う必要がある。</p> <p>登別の団体は個々として頑張っているが、どこの団体でも同じメンバーが多い、若者の掘り起しが必要ではないのか。</p>

委員

各団体の世代交代が進んでいないことも考えられる。若い人がこういう検討する場に顔を出してもらえるような仕組みづくりが大事になる

委員

各産業の現状把握の中でも、若い世代の育成が課題として取り上げられていた。人と人との交流の拠点づくりが必要になる。

登別市内の高校や工学院を卒業した生徒が登別市内に残ってもらえる生活環境、雇用環境を整える必要がある。

事業が実現できない理由があるからだめではなく、実現するにはどうするかを考えていかなければならない。

委員

札内地域の酪農家は、観光客が風景の良いといわれている札内地域に来ることに関してどう思っているのか？

委員

あまり好ましく思っていないと思う。のぼりべつ酪農館やオフロードパークはあり、そういう場所に人が集まるのはいいと思うが、農家の庭先にまで来てほしいとは思わない。札内は風景がいいと言われているが、美瑛のように観光ボランティアがゴミを拾って、畑に観光客が入りこむのを止めているような取り組みが出来るだろうか。これができるなら登別でもいいかもしれない。狭い道路にたくさん車を止められると、農家の邪魔になるし、ゴミがたくさん増えるのは困る。

事務局

各産業が抱えている問題で、人材の確保が難しいと言われている。また人口が減少してきていてお客さんも減ってきている。これをどう解決していくかという点が直接的に市内経済の活性化に繋がっていくと思う。

委員

例えば、登別に若い人に住んでもらうことを目的に、登別に移住して市内中小企業に就職してくれる若年者に対して市民税を無料にしてあげることや、空き家を無料で貸してあげるなど、極端だが魅力ある施策を行うのもいいかもしれない。

委員

今まで日本でやったことのない様な施策をやれ

事務局

ば注目を集めることができ、若い人達に興味を持ってもらえると思う。

事業としてやるなら、事業費が必要になるため、採算性を確保できる仕組みをつくらなければ実施することは難しい。そのような具体性を今後考えていきたい。